

肺炎球菌ワクチンについて

肺炎球菌ワクチンのトピックス

- ・2026年4月から、65歳の方の定期接種で使うワクチンは「プレベナー20®」になりました。
- ・任意接種では「キャップボックス®」という新しいワクチンも選べます。
- ・どのワクチンが適しているかは、接種歴、持病、感染リスクを踏まえて主治医と相談して決めます。

肺炎球菌は、高齢者や持病のある方に、肺炎、菌血症、髄膜炎などの重い感染症を起こすことがある細菌です。とくに65歳以上の方や、心臓・肺・腎臓・肝臓の病気、糖尿病、免疫機能の低下がある方では重症化しやすく、ワクチンによる予防が大切です。当院では、神戸市・明石市の制度に対応した肺炎球菌ワクチン接種を行っています。

1. 肺炎球菌ワクチンとは

肺炎球菌の表面には「莢膜（きょうまく）」という膜があり、この違いによって100種類以上の「血清型」に分かれます。血清型によって流行しやすさや、重い感染症を起こしやすさが少しずつ異なるため、現在のワクチンは、成人で問題になりやすい血清型を選んでカバーするように作られています。

ワクチン名の数字は、カバーしている血清型の数を表しています。たとえばプレベナー20®は20種類、キャップボックス®は21種類、ニューモボックス®NPは23種類の血清型に対応しています。ただし、数字が大きいほど単純に優れているという意味ではなく、どの血清型を含むか、どのような免疫がつかかが重要です。

2. 2026年4月から定期接種がプレベナー20®に変わった理由

これまで高齢者の定期接種では、ニューモボックス®NP（PPSV23）が長く使われてきました。ニューモボックス®NPは23種類の血清型をカバーする実績のあるワクチンですが、「ポリサッカライドワク

チン」であるため、効果が時間とともに弱まりやすく、必要な方では5年以上あけて再接種が検討されてきました。

これに対して、プレベナー20®（PCV20）は「結合型ワクチン」です。含まれる血清型に対して、より強く、より長く続く免疫が期待されます。現在の流行血清型のカバー状況、有効性・安全性、費用対効果などが総合的に評価され、2026年4月から65歳の方の定期接種に用いるワクチンはプレベナー20®へ変更されました。

3. 定期接種について（特に明石市・神戸市の方へ）

現在の定期接種は、原則として65歳時の1回です。60～64歳で一定の基礎疾患がある方も対象になります。定期接種の対象や自己負担額は自治体ごとに異なることがあるため、明石市や神戸市にお住まいの方は最新の案内も確認すると安心です。

※原則として、対象年度を過ぎると任意接種となります。

詳しくは各自治体のHPをご参照ください。

明石市ホームページ（[高齢者肺炎球菌予防接種／明石市](#)）

神戸市ホームページ（[神戸市：高齢者肺炎球菌の予防接種](#)）

4. 明石市独自の肺炎球菌ワクチン制度

明石市では、65歳の方を対象とした定期接種に加えて、追加接種に対する費用助成制度があります。

助成の対象は、65歳以上の明石市民で、前回接種から5年以上経過しており、医師が再接種を必要と認め、かつ2026年4月1日以降に肺炎球菌ワクチンを接種していない方です。

令和8年度（2026年4月1日）以降、この助成制度は1回限りです。制度や自己負担額は変更されることがあるため、接種前に最新の自治体案内をご確認ください。

明石市ホームページ：[高齢者肺炎球菌予防接種／明石市](#)

5. 任意接種で選べるワクチン

過去にニューモバックス®NP を受けたことがある方や、65歳の時に定期接種を受けなかった方には、任意接種という選択肢があります。任意接種ではプレベナー20®を選ぶこともできますし、キャップバックス®（PCV21）という新しい21価ワクチンを使うこともできます。

プレベナー20®とキャップバックス®は、どちらも結合型ワクチンで、いずれも1回接種が基本です。含まれる血清型が一部異なるため、肺炎球菌感染症に対する「守備範囲」に違いがあります。どちらが単純に優れていると決められるものではなく、これまでの接種歴、基礎疾患、感染リスク、費用負担などを踏まえて選びます。

慢性肺疾患、慢性心疾患、慢性腎疾患、糖尿病、免疫低下などがある方では、任意接種も含めて主治医と相談する意義があります。

6. 肺炎球菌ワクチンの選び方

- ・これまで肺炎球菌ワクチンを受けたことがない65歳の方は、まずプレベナー20®の定期接種を検討します。
- ・これまでにニューモバックス®NPや他の肺炎球菌ワクチンを受けたことがある方は、任意接種としてプレベナー20®またはキャップバックス®を検討します。
- ・慢性の持病がある方、免疫が低下している方、肺炎球菌感染をしっかりと予防したい方は、感染リスクに応じて任意接種も含めて相談します。

※学会合同委員会では、PPSV23（ニューモバックス®NP）の再接種は原則選択肢としない、と整理されています。一方で、PCV20・PCV21接種後の再接種の要否については、今後のデータの蓄積により見直される可能性があります。

7. まとめ

肺炎球菌感染症は、高齢者や基礎疾患をお持ちの方にとって重症化しやすい感染症です。まずは定期接種の対象となる方は、プレベナー20®の接種をご検討ください。すでにニューモバックス®NPの接種歴がある方や、感染リスクの高い方には、プレベナー20®やキャップバックス®の任意接種が選択肢になります。

副反応や費用の点も含めて、主治医とよく相談し、ご自身に合った接種計画を立てましょう。

・参考

厚労省 HP [高齢者の肺炎球菌ワクチン | 厚生労働省](#)

65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方（第8版 2026年4月1日改訂）

[65yrs_vaccine_ver8_20260401u.pdf](#)

接種をご希望の方も、接種するか迷っている方も、お気軽にご相談ください。

■ [肺炎球菌ワクチンのご相談はこちら（お問い合わせフォーム・TEL 078-912-7575）](#)

FAQ

Q. 肺炎球菌ワクチンは何歳で受けるのですか？

A. 定期接種は原則として65歳時の1回です。60～64歳で一定の基礎疾患がある方も対象になる場合があります。対象や自己負担額は自治体によって異なることがあるため、最新の案内をご確認ください。

Q. 以前にニューモバックス®NPを打ったことがあります。もう一度ワクチンは必要ですか？

A. 接種歴がある方でも、任意接種としてプレベナー20®やキャップバックス®を検討することがあります。どのワクチンが適しているかは、前回接種からの期間、持病、感染リスクなどを踏まえて判断します。

Q. プレベナー20®とキャップボックス®はどちらがよいですか？

A. どちらも結合型ワクチンで、いずれも1回接種が基本です。含まれる血清型が一部異なるため、どちらが単純に優れているとはいえません。接種歴、基礎疾患、感染リスク、費用負担を踏まえて選びます。

Q. 副反応は大丈夫ですか？

A. 一般的には、接種部位の痛み、腫れ、発赤、だるさ、発熱などがみられることがあります。多くは一時的ですが、心配な症状がある場合は医療機関へご相談ください。

Q. 定期接種の対象年度を過ぎたらどうなりますか？

A. 原則として、対象年度を過ぎると任意接種（自費）になります。接種を希望される場合は、時期を逃さないよう早めにご相談ください。

※本内容は2026年時点の制度に基づいています。